

11.9.16 産経新聞

伊藤忠丸紅
スチールAP

建材工事部門を強化

来年度以降、新分野に進出

伊藤忠丸紅スチールAP（本社＝東京都千代田区、倉橋充社長）は、2012年度から始まる新中期経営計画で屋根断熱シート「冷えルーフ」など扱う環境・建材施工ユニット（工事部門）から2億

13億円の売上総利益増益を図る意向だ。11年度下半期は工事部門の柱となるよう既存事業の選別、新事業の検討を進める。12年度以降、新分野に進出した考え。技術力のある企業と組み、商社機能

を生かしてメーカー開発商品の拡販や、既存事業との相乗効果を図る。

同社によると、「冷えルーフ」は高い断熱効果からヒット商品となっており、今後も期待できる。これまでに施工した地域や施主の業種など研究して拡販につなげる。施工と同時に屋根をふき替えるな

ど鋼板販売の増加も期待する。「冷えルーフ」を開発したサワヤ（本社＝金沢市、尾崎東志郎社長）も、伊藤忠丸紅スチールAPと組んで以来、同製品の売り上げを大きく伸ばしているという。

11年度の売上高は前年度比約2割増の180億円、併せて純利益も2・3割の増益を計画している。11年度売上高は上期の仮設住宅材需要などで前年度から増加の見込み。一方で下期は需要家の在庫が積み上がっており販売量は上期と比べ減少する見込み。下期の利益確保を図る。

12年度以降の工事部門強化も含め、定期採用、伊藤忠丸紅鉄鋼への出向や施工管理技士などの資格取得といった人材育成を続ける。社員のうち3人が出向しているほか、工事部門の担当者7人は、施工管理技士資格を所有している。